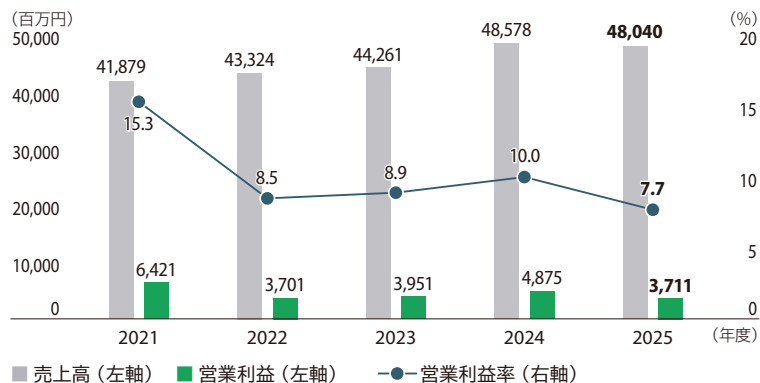


前中期経営計画の振り返り

前中期経営計画「SPEED 25/30」フェーズ1（2021-2025年度）においては、売上高は目標に対し相応の水準に達することができたものの、営業利益・営業利益率・ROEについては未達となりました。特に営業利益については、事業成長に向けて有機EL材料事業を中心に当初計画を上回る設備投資を行い、減価償却費が増大したこと、また、研究開発強化により研究開発費も増加したことが、当初の利益計画を大きく下回る要因となりました。

	目標	フェーズ1 最終年度実績	達成状況
売上高	500億円	480億円	96.0%
営業利益	75億円	37億円	49.3%
営業利益率	15.0%	7.7%	▲7.3pt
ROE	9.0%	6.0%	▲3.0pt

業績推移



SPEED 25/30 フェーズ1

「SPEED 25/30」フェーズ1（2021年度～2025年度）

ビジョン・位置付け

2030年度の「ありたい姿」を目指し、中期経営計画「SPEED 25/30」10カ年の中間地点として2025年度の「目指す姿」を設定。その実現に向けた取り組みを実施
2025年度目標：連結売上高500億円、連結営業利益75億円、連結営業利益率15.0%、ROE9.0%

計画の骨子

- 骨子**
- 成長に資する「戦略投資（事業・設備・IT・インフラ）」の実行
 - 「サステナビリティの推進」「DXの推進」
- 施策**
- 「戦略事業」と「基盤事業」それぞれの持続的成長、新たなポートフォリオ構築—事業強化
 - 戦略事業の技術革新を推進、研究開発テーマの早期事業化・持続的創出—新製品創出
 - 新製品の速やかな立上げ体制の完備、高い生産性での安全・安定な生産—生産性向上
 - 組織能力・働きがいの向上、社会的価値台頭への対応、財務面の改善、業務効率の向上—経営基盤強化
 - 成長に資する戦略投資（事業・設備・IT・インフラ）の実行
 - サステナビリティおよびDXの推進

振り返り

- 事業強化：有機EL材料は収益源として伸長したが、他事業の貢献は限定的で、特定事業への依存が継続
- 新製品創出：メタルフリーアルミ着色用染料の上市等は進んだが、新規テーマの事業化遅延により既存事業の停滞を補うには至らず
- 生産性向上：安定生産体制を構築しエネルギー等の目標を前倒し達成したが、減価償却費が重荷となり利益率が低下
- 経営基盤強化：エンゲージメント調査やJ-ESOP導入で働きがい向上を図り、5年連続増配により株主還元を着実に実施
- 成長に資する戦略投資（事業・設備・IT・インフラ）の実行：有機ELや韓国BioPark等へ積極投資しR&D比率10%超を維持したが、固定費増に対し収益化が遅延
- サステナビリティおよびDXの推進
 - エネルギー原単位や二酸化炭素排出原単位の2025年度目標を早期達成
 - ESG情報の開示充実により、FTSE Russell社のESG評価スコアが上昇
 - DXではERP更改やRPA導入による業務効率化を推進

成果

- 連結売上高
機能性色素事業の伸長等により、売上高は目標に対し相応の水準を達成
- 連結営業利益
投資に伴う固定費増等の影響により、目標に対して進捗率49.3%と未達成
- 連結営業利益率
積極的な研究開発や設備投資に対し、収益化の遅延が利益率を押し下げ目標は未達成
- ROE
株主資本コストを下回る水準で、実績6.0%と目標は未達成

課題

- 有機EL事業に続く「第2・第3の柱」の確立、事業ポートフォリオの是正
- 新製品の事業化・収益化プロセスの加速化、投資リターンを早期創出
- 保有資産の最適化の実施による資本収益性の改善が急務